

災害警戒レベルととるべき避難行動

警戒レベル4は全員避難!

水害・土砂災害時に住民がとるべき避難行動が、その切迫度に応じて警戒レベル1～5に区分されています。市や気象台から出される警戒レベルと、自らの命を守るためにとるべき避難行動をしっかりとっておくこと、そして避難のタイミングを逃さないようにすることが重要です。

警戒レベル5段階表示

警戒レベル	避難行動等	避難情報等
警戒レベル5	既に災害が発生している状況です。命を守るための最善の行動をとりましょう。	緊急安全確保※ 災害が実際に発生していること※ ※1を把握した場合に、可能な範囲で発令 (市が発令)
警戒レベル4 全員避難	危険な場所から全員が速やかに避難先へ避難しましょう。公的な避難場所までの移動が危険と思われる場合は、近くの安全な場所や、自宅内のより安全な場所に避難しましょう。	避難指示 (市が発令)
警戒レベル3 高齢者等は避難	危険な場所から避難に時間を要する人(ご高齢の方、障害のある方、乳幼児等)とその支援者は避難をしましょう。その他の人は、避難の準備を整えましょう。	高齢者等避難 (市が発令)
警戒レベル2	避難に備え、ハザードマップ等により、自らの避難行動を確認しましょう。	注意報 (気象台が発表)
警戒レベル1	災害への心構えを高めましょう。	早期注意情報 (気象台が発表)

■警戒レベル3や4が出たら、危険な場所から避難しましょう。

■「避難」とは「難」を「避」けることです。

安全な場所にいる人は、避難する必要はありません。

■避難先は小中学校・地域交流センターだけではありません。

安全な親戚・知人宅に避難することも考えてみましょう。

※緊急時に身を寄せる避難先は、市が指定する「指定緊急避難場所」や、安全な親戚・知人宅など様々です。普段からどこに避難するかを決めておきましょう。

※「指定緊急避難場所」は、災害の種類ごとに安全な場所が指定されています。(小中学校、地域交流センターなど)

※災害が落ち着いた後に、自宅が被災し、帰宅できない場合には、しばらく避難生活を送るため、「指定避難所」に行きましょう。

命をまもるための自主避難

夜間の避難は危険!
大雨や津波、高潮などのピークが夜間になることが予測される場合は、明るいうちに自主避難を。

大雨の中の避難は危険!
台風や集中豪雨が予想される場合は、道路の冠水などによる避難経路の遮断を想定し、早めの自主避難を。


迅速な避難が難しい!
避難に時間がかかるため、早めの行動が大切。近所に高齢者や配慮の必要な方がいたら、声をかけて避難に協力を。

避難するときは

- 近所で声を掛け合って避難する。
- 車はなるべく使わない。
- 道路が水で隠れてしまったところは歩かない。

避難時の服装

- ・ 頭部を護るもの
- ・ 目立つ色のレインコート
- ・ 運動靴
- ※ 長靴は水が入ると歩きにくくなる
- ・ 手袋



明るいうちに

大雨になる前に

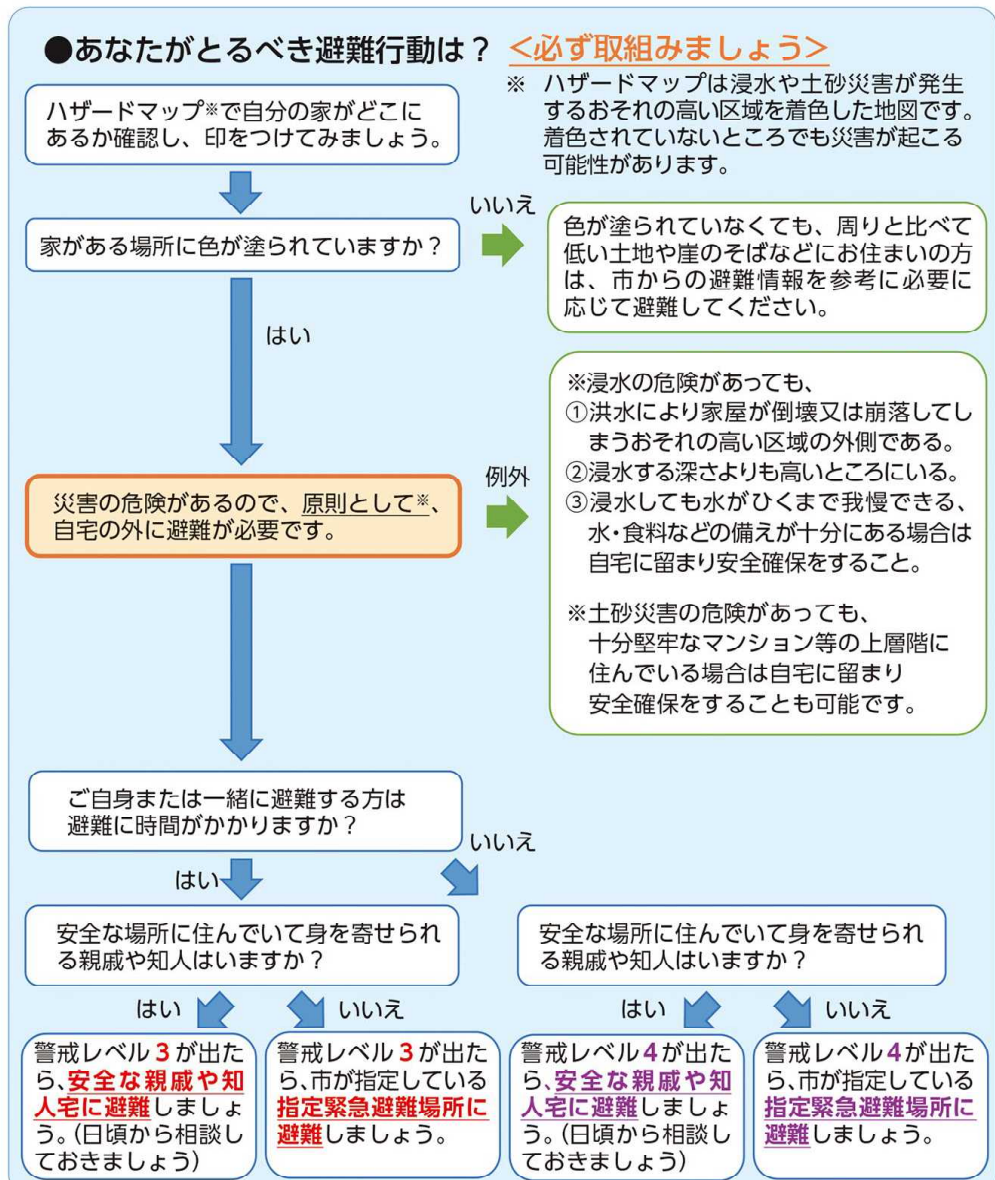
高齢者等は早めに

ハザードマップと一緒に「避難行動判定フロー」を確認しましょう

- 「自らの命は自らが守る」意識を持ち、自宅の災害リスクととるべき行動を確認しましょう。

平時に確認

避難行動判定フロー



避難行動について